

# 本当に多数派！？ 適切な判断を見失うSNSの落とし穴



## ◆SNSは多様な意見に触れられる!?



インターネットを使っていると、自分の好みに合った広告が上がってきたり、自分の興味関心に合ったニュースが流れてきたりすると感じたことはありませんか？ 趣味嗜好に合った情報が簡単に得られることは一見便利ではありますが、アクセスする情報が偏ることで物事を多角的に判断する機会が奪われ、一つの意見に固執してしまうことにもなりかねません。インターネットで陥りがちな二つの罠を押さえ、情報を有効に使いましょう。

### 【エコーチェンバー現象】

同じ意見を持つ人同士でコミュニケーションをとることにより、自分の意見が増幅・強化されること。SNSで同じ趣味嗜好の人とつながり、耳ざわりのよい情報ばかりに囲まれていると、異なる意見に耳を傾ける機会を失い、極端な思想や行動につながることも。

### 【フィルターバブル】

検索履歴やSNSの傾向をもとに、各人に最適化されたインターネットコンテンツが表示され、似た情報や視点に囲まれてしまう状態のこと。ユーザーが見たいであろう情報が表示されそれ以外が遮断される結果、偏った情報をもとに物事を判断してしまうことに。

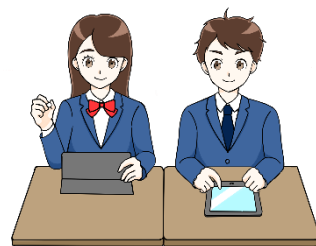
## ◆偏りの罠にはまらないために

### ～意識改革と設定の見直しを～

- ・自分と違う意見の人を意識的にフォロー
- ・閉鎖的な環境と自ら距離を置く
- ・サイトを比較する習慣をつける
- ・情報の発信元を確かめる
- ・検索履歴を残さない
- ・アカウントからログアウト
- ・広告のカスタマイズをオフ
- ・SNSのフィルター設定を変更

中学生の間は多様な意見や考え方に触れる中で自我を確立していく大切な期間。  
ご家庭でインターネットの特性、情報について話し合い、子ども達の柔軟な発想力を伸ばしていきましょう。

# 1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」 GIGAスクール構想ってなに!?



## ■ GIGAスクール構想とは

文部科学省が打ち出した、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想。

GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略。

## ■ 実施の背景～日本は世界より遅れてる! ?～

### 1. 学習におけるICT機器の利用の遅れ

PISAのICT活用調査によると、日本は学校の授業におけるデジタル機器の利用時間がOECD加盟諸国中最下位（利用しないと答えた割合80%）。

### 2. 学校におけるICT環境の地域格差

2020年度調査では、教育用コンピュータ1台あたり児童生徒数は平均4.9人。最高は1.8人、最低は6.6人。地域格差が浮き彫りになっている。

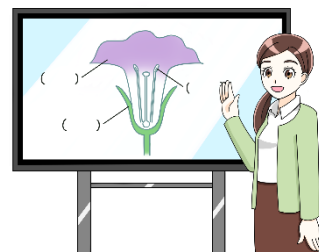
### 3. ICT機器の利用目的の偏り

ゲームやチャットの利用率はOECD加盟諸国中1位。宿題など学校外の学習での利用率はOECD加盟諸国中最下位。

→ 全国の児童生徒向け学習用端末の導入（一人一台）、  
高速大容量の通信ネットワークの整備へ

## ■ こう変わる! これからの学び（一例）

- ・ 検索サイトを活用した調べ学習
- ・ 子供たちの反応を確認しながらのペース配分
- ・ リアルタイムで考えを共有しながら学びあう
- ・ 一斉同時進行ではなく、各自の進捗ペースに合わせた学びの実現 などなど



## ■ ICT機器は大切なパートナー ～他律から自律へ～

GIGAスクール構想の実現によって、学びの在り方は大きな転換期を迎えます。ICT機器は「娯楽用品」から、「学習のパートナー」へと変化するでしょう。これまでのように保護者が決めたルールを守ればOK、という他律的な関わり方ではなく、子ども自らがインターネットの特性を理解し、よりよい使い方を自律的に判断していく姿勢が求められています。

端末配布がGIGAスクール構想のゴールではありません。  
ゴールは子ども達が「自分で判断できる人」になること。